



## それぞれの“楽しい”を見てみると

### 花組 尾川

園生活にも慣れ、朝の準備も「シール貼ったから、あとはタオルだ！」と自分から準備する姿や帰りの支度をするとき、「トイレに行ってきたーす！」「先生、椅子並べとくね」と見通しをもって生活する姿が増えてきました。自分でできることが増える嬉しさを一緒に喜びながら、子どもたちの自信につながるように、また「自分でやってみよう」と思えるように支えていきたいと思っています。

そして、自分のやりたいことを見つけて楽しむ姿もどんどん増えてきた花組さん。登園してすぐに、ドレスを着ておままごとを始めるIちゃん、製作の場で花紙を使って紫陽花をつくるMちゃん、踊りの場に行きCDをかけて踊り出すNちゃんとHくん、「蜘蛛捕まえてきたよ」と飼っているカエルに餌をあげるKくん、「先生、キュウリのお花が咲いている。お水あげなきゃね」と育てている野菜に水やりをするRちゃんSくんなどそれぞれがしたいことを見つけて安心して遊び出す姿を見て、自分達の生活になってきていると子どもたちの成長を嬉しく思います。



先日、Mちゃんが「ペットボトルに色水をたくさん入れたい」と言ったことをきっかけに、保育室前の園庭に水の入った水槽

とペットボトルを準備しました。子どもたちはすぐに興味をもち、自分で選んだペットボトルでそれぞれの楽しさを見つけて遊びました。Cちゃんは、ペットボトルを水の中に沈めると気泡が上がってくるのが不思議だった様子で、「シャボン玉みたい」と言ったり、Nくんは、漏斗を使って水を入れる面白さに気付き、水が漏斗の細い道を通ってペットボトルに入る様子を何度も繰り返し見たり、Sくんは水の入ったペットボトルをひっくり返し机に置くと、水がこぼれないことに気づき、何度も保育者を呼んで「見てこぼれない！」とやって見せました。それぞれが“楽しい”“面白い”と思ったことを繰り返し遊ぶ中で、友達が楽しんでいることを「自分もやってみよう」とさらに楽しいを増やしていく姿が見られました。Cちゃんは「先生、私もできる！」とペットボトルをひっくり返して見せたり、Sくんは「僕もあれ（漏斗）で水を入れたい！」と漏斗を使って水の流れを見たりしていました。自分のしたいことをする中で、少しずつ友達のやっていることにも目が向けられるように支えていきたいです。



## 静かに歩いて！

### 風組 中原

進級児は昨年からの友達関係で、新入園児は新入園児同士で支え合ってきた、風組最初の一か月。毎日、クラスみんなで一緒にお弁当を食べたり、自分の好きな遊びを楽しんだりしているうちに、少しずつ友達との関わりが増えていき、今では進級児、新入園児が混ざり合って遊ぶようになっています。これまでの友達との関係が深まったり、新しい友達関係が広がったり始めている風組さん。それぞれの思いがぶつかるときもありますが、それは友達のことが大好きで、気持ちが友達に向いている証だと思うと、日々全力で成長していることを実感でき嬉しい限りです。

先日、星組さんから大きなバッタをもらったAくん。「いいな、見せて」と、生き物好きの男児たちが、バッタの飼育ケースをのぞき込むのですが、「僕が見てるのに」「僕の方が先やったよ」と、想像通りの押し合いになります。「同じようなバッタが見つかりますように」と、バッタを求めて園庭を探すのですが、そう都合よくは見つからないものです。「幼稚園にいないのなら、小学校はどうだろう」と運動会の代休で誰もいない小学校のグラウンドに行ってみるようになりました。広いグラウンドを走り回って生き物を探す

子どもたちでしたが、結局何も捕まえることができないまま降園時間になりました。残念な気持ちで幼稚園に戻ってくると、園庭にはモンシロチョウやアゲハチョウが飛んでいて、目の前を二ホントカゲが走り去っていくではありませんか。幼稚園は、生き物パラダイスなのだということに再認識しました。なにより、生き物たちは子どもの気配をしっかりと察知しているということがよくわかりました。その日の帰りの会では「チョウチョたちは、子どもたちがいなくなった！今だ！って話し合って、出て来たみたいだね」という話になりました。翌日、トカゲ探しを始めようと意気込んでいる男児たちに「こうして静かに歩いて！」とBくん。気配を隠す作戦のようです。虫捕り以外の遊びでも、「明日も、花組を呼ぼう」と、お客さんを呼ぶためにショーやお店屋さんの準備をするなど、今日の遊びやこれまでの経験が翌日以降にも続くことが増えてきています。このような姿も、成長を感じる嬉しい姿の一つです。



## 生き物と関わることで・・・

### 星組1 田中

登園すると、友達と誘い合って遊びに向かう姿が多く見られるようになってきました。星組のテラスには子どもたちが日々見つけ、捕まえた生き物たちがたくさん並んでいます。

今年もキャベツやブロッコリーにモンシロチョウが卵を産み、たくさんの幼虫が生まれていました。虫好きの男児達が飼育ケースに集め観察がスタートしました。星組に来て1、2週間するとサナギに変身し、蓋にたくさんのサナギが。みんなで数えてみるとなんとその数18匹。みんなが見えやすいように、星組1と星組2の間のテラスに蓋を吊り下げました。毎日通るテラスなので自然と目に入ります。虫好きな子どもたちはもちろん、これまで虫にあまり関心がない様子の子も通る度に蓋を見上げ、サナギの様子を気にかけるようになりました。「これはまだ緑だから、こっちのサナギの方が後にサナギになったんだね」「このサナギ色が変わっているよ」など、毎日観察しているからこそ生まれる気づきを伝え合い、今か今かと羽化する日を楽しみにしていました。そしてついにそのときがやって来ました！1匹目が羽化したときには子どもたちと一緒に保育者も大興奮。羽化した様子を見近で見ると、生まれてすぐは羽がしわしわで、乾いたら飛べるということを知りました。それからは18匹のサナギが毎日のように、1匹

また1匹と成虫になることを喜び合い、「ねえ！チョウチョになってるよ！」と、とても嬉しそうにみんなに報告する子もいました。羽化する度に、外の世界に飛び立つモンシロチョウを見送り、飛び立つまで「頑張れ！頑張れ！」と応援し、飛び立つときには「バイバイ！」と手を振る子どもたち。新しい命が生まれ、成長する喜びを感じることができてとても素敵な時間でした。

どうやったら捕まえられるのだろう、何を食べるのかな？どれくらい触っても大丈夫なのか…生き物と関わることで様々な学びがあります。虫が大好きなAくんが「カマキリの赤ちゃん捕まえたよ」と見せてくれました。「でもこれはまだ赤ちゃんだから逃がしてあげるね」とAくん。Bちゃんは登園するときによく草花を持って来てくれます。かわいいお花を見せてくれるためだと思っていましたが、「これお墓にあげたいの」とBちゃん。虫たちのお墓にお供えするために持って来てくれたのです。生き物のことを思い、命に触れることで、こんなにも優しい心が育まれるのだと心が温かくなりました。これからもこのような子どもたちの姿を支えていきたいと思っています。



## 自然な関わりの中で・・・

### 星組2 中野

小学校の運動会で1年生が踊っていた「♪ポケダンス」。園でも子どもたちが口ずさんだり、踊ったりする姿がありました。そんな子どもたちのために曲を用意すると、さっそく友達と誘い合って踊り始めます。踊る中で「あれ？こどうやって踊るんだっけ？」「こうじゃない？」「えー、こうだったよ」と口々に言う子どもたち…これはもう1年生に聞いてみよう！ということで、1年生の担任の先生にも相談して、小学校の中間休みに芝生で待ち合わせをして教えてもらうことになりました。数人の1年生がやって来てくれて「手がこっちの時は、こうよ（腰を横にする）」と見せてくれたり、「上手じゃん」と褒めてもらったり…一緒に踊る中での自然な関わりが生まれていました。1年生に教えてもらった後、再び遊戯室のステージで踊ります。「こうやって足（ひざ）曲げてた」など教えてもらったり、1年生の姿を見て気付いたりしたことをさっそく取り入れながら踊る姿に感心しました。じーっと見て、真似てどんどん自分のものにしていくのです。何回か繰り返すうちに、花組さんや風組さんに見せたいという気持ちが生まれ、「見に来てください」と誘い掛けに行く子どもたち。これまで

プリンセス、はたらく細胞などいろいろなショーを開いて楽しんできた子どもたちは小さい人を見てもらうことが嬉しくてたまらないのです。ポケダンスも同様でさっそく見せたい気持ちになっていました。その気持ちはどんどん広がり、「小学校の人にも見せたい」という声。「来てもらえそうな時間を聞いておくれ」と言い、子どもたちに伝えると「プレゼントを渡したい」と直前までメダルをつくったり、椅子をたくさん並べたり…せっせと準備する姿に楽しみな気持ちが表れていました。数人の子どもたちもショーに参加したい気持ちになったようで「カメラマンになる」と言い、TVクルーが誕生。ショーの撮影はもちろんのこと「どうでしたか？」とショーの後1年生にインタビューをする姿もありましたよ。ショーが終わった後、「ドキドキした」「やったーって喜んでくれた」「大成功じゃない？」「大成功！」と興奮気味の子どもたち。「また教えてね」「一緒に踊ろうね」子どもたちのそうした気持ちが出発点の交流をこれからも続けていきたいと思っています。

